

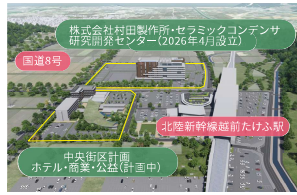
戸田建設「地域と共創する」まちづくり事業実施事例(進行中)

SECC 事業推進マップ | 戸田建設が国内で進めているSECC事業の一部をご紹介します！

グリーンフィールド開発

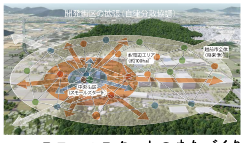
事業4

越前たけふイノベーションシティ



駅周辺で進行中のまちづくり

2024年春、越前市福井県に北陸新幹線「越前たけふ駅」が生まれました。越前たけふ駅周辺の約100haを対象に、スマートシティのまちづくりを進めています。まずは駅周辺にスモールスマートエリアを構築し、段階的に事業を展開していきます。現在まちづくりの第一弾となる研究開発センターの新築工事と第二弾の中央街区「未来創造基地」の計画を推進しています。



スモールスタートのまちづくり

未来像

- ・地域特性を活かした未来都市の創造
- ・スマートシティ&フォレストシティ
- ・約100haの自律分散協調型の開発

事例紹介/福井県越前市版スマートシティ「ECHIZEN クエスト」体験！

戸田建設・JTB、富士通、越前市観光協会などが連携し、福井県越前市の体験工房と協力して展開する、体験型観光コンテンツです。参加者は市内の各スポットで、伝統工芸やものづくりを楽しむながら体験を行い、紫式部が描かれたNFTを獲得します。今後はNFTを活用した地域通貨やポイント制度、保有者限定の割引・特典体験などの連携も予定しており、観光と地域経済をつなぐ仕組みとして展開していきます。



今回のスコープ

※「ECHIZENクエスト」は国土交通省観光庁の補助金事業「地域観光魅力向上事業」に採択された取り組みです。

ブラウンフィールド開発

事業5

五島SECCプロジェクト

長崎県五島市「脱炭素先行地域(第5回)」2024年9月～



完成予想図

五島市脱炭素先行地域FWA(フロンティア・ウィンド:アグリケーション)に参画し、戸田建設が地域のゲートキーパーとして、再エネ導入と蓄電池を活用した運用を行い、持続可能なまちづくりを目指します。

未来像

- ・市内の蓄電池を使った出力制御
- ・市内で得られる非化石証書を地域の新電力へ提供
- ・地域の新電力会社とDR(発電・市場・需要予測情報)を検討

ブラウンフィールド開発

事業1

下川町SECCプロジェクト

北海道下川町「地方創生に関する包括連携協定」2023年7月～

森林資源や再生可能エネルギーを活用した持続可能な地域づくりを目指し、包括連携協定を締結しました。今後は農林業の振興や脱炭素社会の実現、少子高齢化への対応など、さまざまな分野で連携を進めています。TODA BUILDINGではトレーサビリティを確保した下川町の木材を使用しています。



下川町のなついちご



FSC®認証を取得

ブラウンフィールド開発

事業2

酒田市SECCプロジェクト

山形県酒田市「地域創生包括連携協定」2025年6月～

酒田市のPRE・地域資源の有効活用と地域産業との連携による地域創生を目指します。2025年6月に取得した「旧かんばの宿 酒田」を中核に、将来の再エネ事業の展開も視野に、市と連携しながら地域活性化事業を推進します。



観光資源を活用(山居倉庫)



旧かんばの宿酒田

グリーンフィールド開発

事業3

アグリサイエンスバレー常総

常総市 官民連携事業(PPP協定)2014年～

常総市は、農業や産業の振興、水害からの復興、人口減少などの課題を抱えています。常総IC周辺の開発を進める中で、農地転用の難しさから、農業6次産業化を軸とした構想に転換しました。この構想のもと、戸田建設は官民連携パートナーとして、事業計画の策定や区画整理、建設、農業法人の誘致、施設運営まで幅広く関わり、地域の新たな発展を支えています。



計画エリア全景

TODA農房の農園

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目7番1号

Tel. (03) 3535-1376 (代表)

TODA
戸田建設株式会社



「地域と共創する」まちづくり

地域が思い描く未来像を尊重し、
身の丈に合うアジャイル※なまちづくりを支援します。



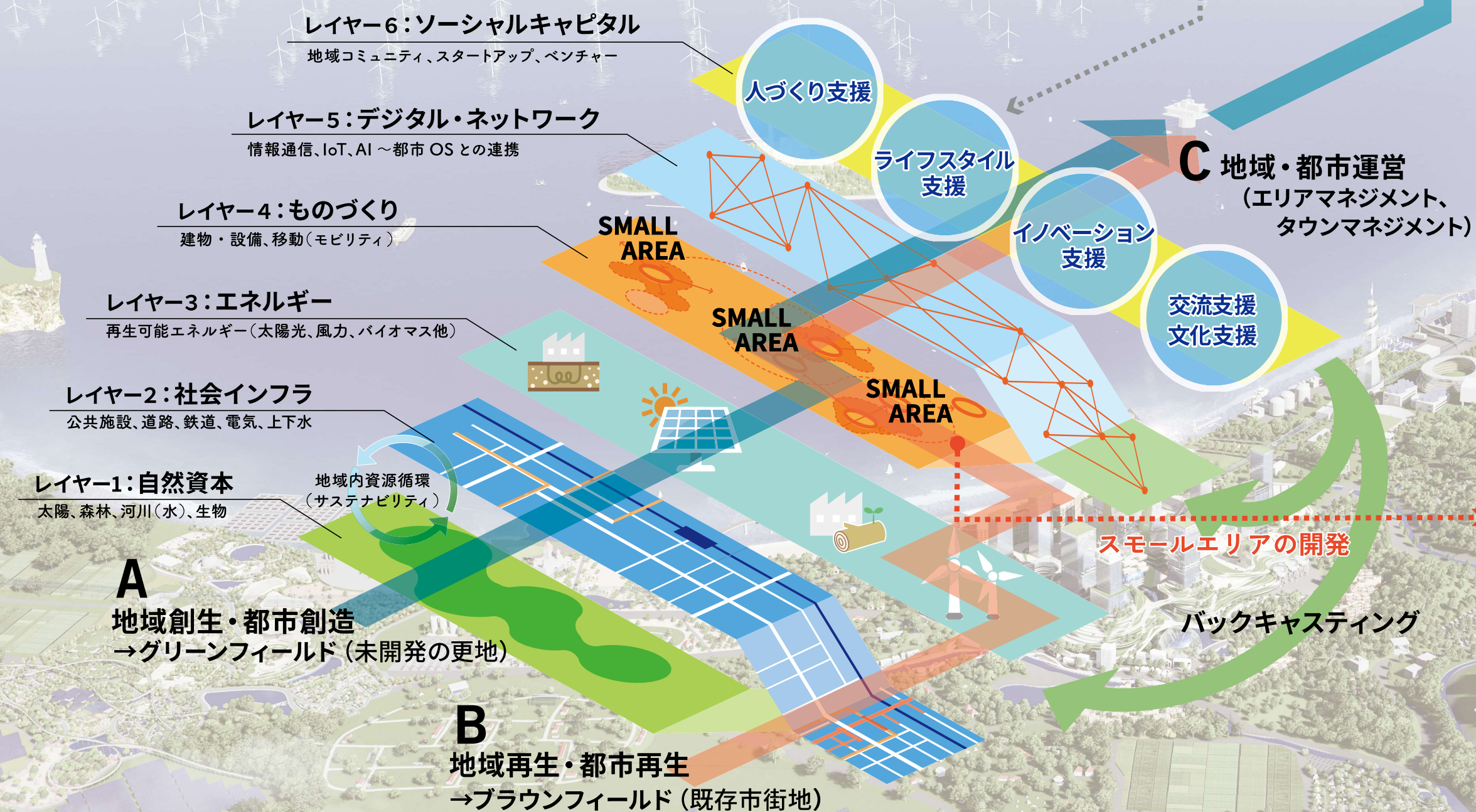
※ アジャイルとは、完成形をあらかじめ固定せずにスタートし、時代の変化に応じたトライ＆エラーでアップデートを続ける開発手法です。

持続可能な都市SECCの実装と推進

地域と共に価値を創造するまちづくりの戦略

SECC(スマート・エネルギー・コンプレックス・シティ)とは、2050年を想定した、戸田建設が描き出す「未来都市構想」です。人口減少や、エネルギーなど地球環境問題、地方創生・都市再生といった様々な社会課題を解決するために、ひとり、ものづくり、そしてデジタルの先端技術を駆使し、複合的かつコンパクトなまちづくりを推進しています。

まちづくりのための検討領域を6層に分け価値の創出と事業推進をおこないます



① 地域独自の開発ビジョンを策定する 現地調査／企画立案

地域の住民の幸福度や、観光客など来訪者を含む市民の満足度を重視し、それぞれのまちの未来に対する思いを聴き取りながら、オーダーメイドによる事業の企画を立案します。地域の未来像(開発ビジョン)を共有するために欠かせないプロセスです。

② スモールエリアの開発から始める 事業計画／建設

コンパクトでウォーカブルなまちづくりを可能とするエリア(スモールエリア)を設定し、開発事業をスタートさせます。持続可能なまちづくりを目指し、立地の魅力を重視した、その地域の身の丈に合った投資規模の開発事業から始めていきます。

③ 自立分散協調型のまちに育てる エリア運営／連携支援

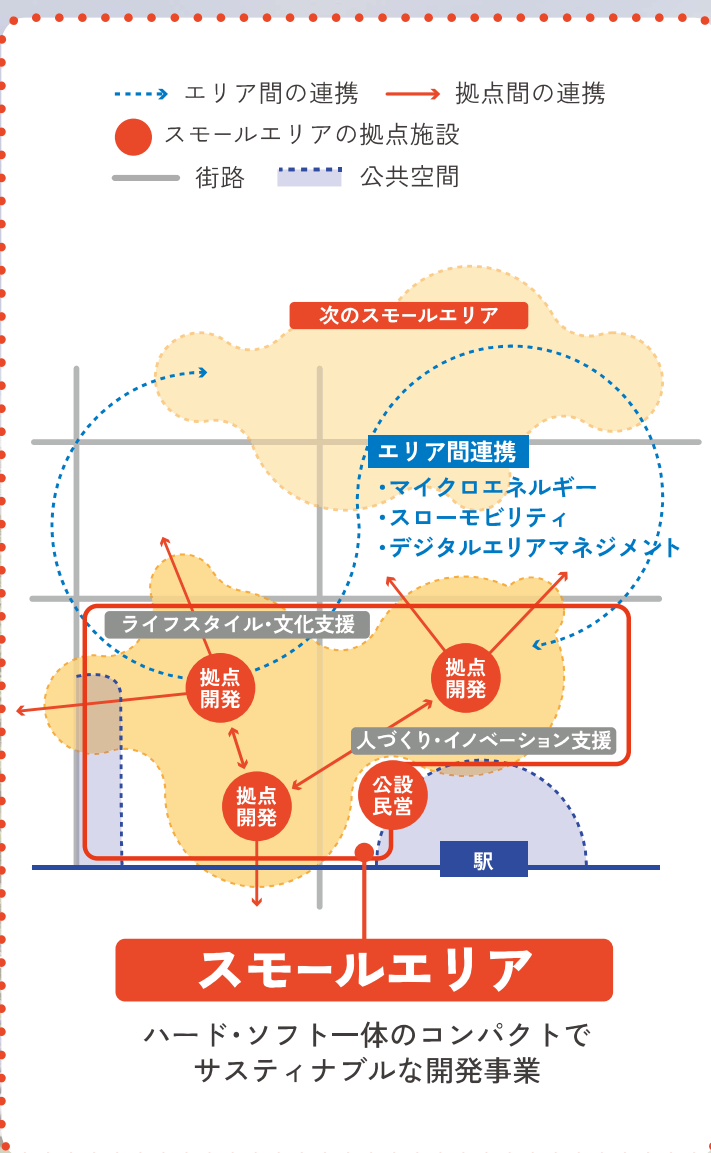
自律的に運営されるスモールエリアを、地域の事情に合わせて開発可能な箇所から配置します。戸田建設が持つ都市のスマート化ソリューションや、関連のデジタル技術を駆使しながら、分散的であっても複数エリアの開発がシナジー効果を発揮するように誘導・支援していきます。

戸田建設が描く
「誰もがいきいきと快適に暮らせる2050年のまち」

SECC Smart Energy Complex City

自律可能なスモールエリアの集積・連携

▲ ▲ ▲
エリア間の連携を図る



SECCプロセス2(実装)

実現可能なエリアから順に、スモールエリアとして事業を具体化し、まちづくりの連鎖・集積を誘導していきます